

平成30年度 第1回瑞浪市市之瀬廣太記念美術館協議会議事録

日 時：平成30年6月13日（水）10時～11時

会 場：瑞浪市化石博物館レクチャールーム

出席者 <協議会委員> 柴田 増三（社会教育関係者）
島村 節男（学識経験を有するもの）
今井 敬博（学校教育関係者）
西尾 京子（家庭教育の向上に資する有するもの）
<事務局> 工藤 嘉高（館長）・柄澤宏明（事務局員）
欠席者 <協議会委員> 市之瀬 肇（学識経験を有するもの）

1 委嘱状交付、2 あいさつ、3 会長選出

館長より委嘱状交付の後、互選により柴田委員が会長に選出された。

4 報告事項

1) 平成29年度事業報告

(1) 普及活動について

① 講座の開催

名 称：土人形づくり

期 日：7月22日、7月23日、8月27日、9月3日（延べ4日）

受講者数：20名

講 師：島村委員・柴田千歌氏

そ の 他：12名の定員としたが、4月に社会教育課より全戸配布された「生涯楽習ガイドブック」からの申し込みもあり、定員を増やして受け入れた。

② 企画展の開催

名 称：第30回企画展「天野裕夫彫刻の世界」

*国際陶磁器フェスティバル美濃'17（9月15日～10月22日）
協賛事業

期 間：9月9日（土）から11月12日（日）

入場者数：1,003人

関連行事：対談会（10月14日（土））

天野裕夫 正村美里（岐阜県美術館副館長）55名

(2) その他

① 日比野知三氏（八王子市在住、新制作協会会員、日本美術家連盟会員）より彫刻の寄付の申し出があり、9作品を受領した。

② 岐工連（多治見市）所有の市之瀬作品の寄付の申し出があり、作品を受領した。

③ 天野裕夫氏より、作品の寄託の申し出があり、34作品を受け入れた。現在、第1展示室にて特別展示中にある。

質疑・意見等

・受領作品について

柴田会長、島村委員：日比野氏より受領した作品は、まずは館収蔵庫等で保管し、テーマが分散するため館内で展示することは避けるべきである。

柴田会長：美術館での展示よりも、公民館等に貸出して展示できないか働きかけてみる。結果は、事務局に報告する。

5 協議事項

1) 平成30年度事業計画について

(1) 普及活動について

① 講座等の開催

土人形づくり

高砂と土雛コースに分け実施。

期 日：延べ4日 7月21日、22日、8月25日、9月2日

定 員：20名 (各10名)

講 師：島村委員・柴田千歌氏

受講料：3,000円

② 企画展の開催

名 称：第31回企画展「中山尚子（タイトル未定）」

期 間：9月22日（金）～10月21日（日）

その他：9月22日、13時30分よりオープニングコンサートを実施し、続いて中山さん挨拶、作品紹介を行う

同テーマの人形劇を9月29日（土）に総合文化センターで開催

(2) その他

- ① 瑞浪北中学校にて市之瀬作品5点を展示予定である旨説明した。

質疑・意見等

・講座の開催について

柴田会長：稲津コミュニティに、土人形作りの型がある。

事務局：使わないのであれば、現在使用中の型が古くなっているので貰い受けたい。

柴田会長：おそらく使用することは無いと思うが、確認して連絡する。

西尾委員：土人形のミニチュアを用意しておき、色付けして持って帰れるような教室は考えられないか。

事務局：窯業技術研究所と連携し、実施の可能性について摸索する。

・その他

柴田会長：文化施設の再編計画としてその進捗状況について質問があった。

事務局：29年度に市民公園文化施設の管理に関わる基本方針と公共施設等総合管理計画を策定し、今後の4館を統合した新博物館建設方針を示した。新博物館建設までの美術館の管理方針については、施設設備に不具合が生じ、来館者に影響がある場合には閉館する方針とした。

柴田会長：統合館ができる以前の閉館には抵抗がある。例えば、空調機器類が壊れたとしても、コミュニティのような各部屋に単独の空調設備を導入すれば、更新費用は低額で済むので検討するよう要望する。

事務局：そのような事態が発生した時点で、市長部局と協議したい。

西尾委員：多治見のバローホールのように施設の銘銘権を企業等に譲渡し、外部資金獲得はできないか。また、それにより、官（館）・民相互にPRできることもある。

柴田会長・事務局：当市ではその事例がないが、大きな企業がないため実現は困難であろう。

西尾委員：統合館も良いかもしれないが、環境の良い市民公園を取り巻く現在の分散配置は、小さなお子さんをもった家族連れの利用者にとって理想的。

・瑞浪北中学校での展示について

島村委員：北中学校に5点のブロンズ展示は良いことだと思うが、具体的にどの作品を展示するのか、また、閉校する陶中学校と釜戸中学校にあるブロンズ作品はどうするのか。

事務局：北中学校での展示作品は教育委員会にて現在候補の選定中にある。候補が決まったら市之瀬肇氏に相談し開校までに展示したいので、ご理解いただきたい。

今井委員：釜戸中学校については、ブロンズ作品を引き上げるべきだろう。

事務局：承知しました。

・入館者数について

柴田会長：入館者の減少が認められるが、その理由は？

事務局：時代を遡るが、市民公園文化施設の入館者減は、サイエンスワールドの開館に起因する。特に、小中学校団体の利用者減が認められるということは、サイエンスワールドの利用者は半日程度同施設に滞在し、残る時間で化石採集、博物館見学、あるいは、地球回廊見学の3択の中から選ぶ傾向にある。近年では、地球回廊が3万人強の入館者があり、化石博物館は3万人を割るようになった。文化施設の内、地球回廊はトンネル空間であり、恐竜等子供の興味を引く展示物があるため、家族連れの入館も多いと考えている。また、28年度の企画展は、市内に在住の方の企画展であり入館者が多かったが、29年度は、現在は市外で活躍されている方の企画展であったため、市内における知名度が低い。市外からの入館者は多かったが、結果として期間中入館者が前年度より少なくなった影響も反映されたと考えられる。